

Title	クロスボーダーのナレッジ移転 - 事例：バイオ・インダストリーにおける人材フローを追って -
Sub Title	
Author	高橋, 菜穂子(Takahashi, Naoko) 奥村, 昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1786号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1786">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1786</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	奥村 研究室	学籍番号	80128523	氏名	高橋 菜穂子
(論文題名)					
<b>クロスボーダーのナレッジ移転</b> <b>- 事例：バイオ・インダストリーにおける人材フローを追って -</b>					
(内容の要旨)					
<p>経営資源に対する認識が大きく変わりゆく今、ナレッジ、即ち「知」という見えない経営資源こそが、これからの企業にとって未来のコア・コンピタンスを作り出す源泉であるとして注目されている。近年、競争のボーダーレス化が進む中、海外より戦略的にナレッジを調達しようとする日本企業の動きが顕著である。</p> <p>本論文の目的は、未来の企業力を構築するために、新たなナレッジを海外より移転させることを検討している企業の経営陣に対して、どのような経営手法をとるべきか、その手法をどうマネジメントすることが望ましいか提言を行うことにある。事例として知識集約産業であるバイオ・インダストリーをとりあげ、日本の製薬企業がいかに米国より研究開発のナレッジを移転しようとしているかに焦点をあてる。</p> <p>ナレッジというものは人の中に深くしみ込んでいるものであり、ノウハウだけでなく、メンタル・モデルや信念まで内包しているものである(野中、2000)。よって、ナレッジ移転を観察するためには、必ず人を媒介として観察することが必要である。このことから、本論文では、クロスボーダーのナレッジ移転を成功させる決定要因は、人材フローであると仮定した。人材フローの量、人材と人材を異文化間においてつなぐリエゾンの存在、帰任した研究者の人材育成手法について考察することで、どのように人材フローを管理すればナレッジが移転できるのかを研究する。</p> <p>ナレッジの送り手となる米国人研究者、ナレッジの受け手となる日本人研究者の合計14名の事例研究を通して、「ナレッジの移転と創発」を成功させる人材フローのフレームワークを構築する。さらに、このフレームワークの背後に見られる抽象概念を分析し、ナレッジの「分化と統合」が新しいナレッジの創発を導いていることを結論とする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					